

## 平成29年度 奈良県子ども読書活動推進会議議事要旨

日 時 平成29年8月2日（水）午前10時～正午

場 所 奈良県中小企業会館4階 会議室（1）

出席者	奈良県くらし創造部次長（議長）	吉田 晴行
	奈良県図書館協会公共図書館部会代表 （奈良市立中央図書館長）	奥田 喜隆
	奈良県学校図書館協議会代表 （奈良市立椿井小学校長）	大橋 美子
	奈良県学校図書館協議会 高等学校図書館研究会代表 （奈良県立平城高等学校長）	今西 一盛
	奈良県都市教育長協議会代表 （奈良市立北部図書館長）	北出 慎一
	奈良県町村教育長会代表 （安堵町教育委員会教育長）	楮山 素伸
	民間団体ボランティア代表 （奈良子どもの本連絡会）	船津 喜美子
	学識経験者 （奈良教育大学教職大学院教授）	松川 利広
	奈良県立図書館情報館副館長	小嶋 宏平
	奈良県教育委員会事務局学校教育課長 代理 学校教育課長補佐	椿本 剛也
	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課長 代理 人権・地域教育課主任主査	松嶋 志帆
	奈良県くらし創造部青少年・社会活動推進課長	原田 徳義

### ○会議の公開について

- ・本会議は、「奈良県子ども読書活動推進会議公開の取扱い」及び「傍聴要領」を規定している。この「取扱い」により、会議は原則公開とし、開催に際しては傍聴席を設け、終了後は奈良県ホームページにて議事録を掲載する。

## ○議長挨拶

## ○委員紹介

## ○議事要旨

### (1) 平成28年度事業報告

#### ①子ども読書活動推進会議について

平成28年度は、7月8日に当会議を開催した。皆様方より多くのご意見をいただいた。

#### ②「子どもの読書活動推進」啓発ポスター募集事業について

平成24年度から「子どもの読書活動推進」啓発ポスター募集事業を開始した。昨年の参加作品は小・中・高あわせて230作品、審査会でそのうち20作品を優秀作品として選考し、県内施設での展示、啓発等に活用した。

#### ③子ども読書活動推進講座について

この講座は、図書館関係者・読み聞かせボランティア、教職員等を対象に、講義・実践の形で行っている。昨年度は県教育委員会事務局人権・地域教育課主催で4回開講し、計157名の参加があった。

#### ④子ども読書活動推進会議専門部会について

平成28年11月21日、子ども読書活動推進会議の専門部会を開催した。専門部会では、子ども読書活動優秀実践学校・図書館ならびに団体に対する文部科学大臣表彰の推薦に関して協議し、奈良県からは「葛城市立新庄北小学校」「上牧町立上牧第二中学校」「奈良県立西の京高等学校」「王寺町立図書館」と斑鳩町の「おはなしさんぽ」を文部科学省へ推薦した。今年4月には文部科学大臣の表彰が決定し、東京都で表彰式が開催された。

#### ⑤子ども読書活動推進フォーラムについて

平成28年3月6日、葛城市新庄文化会館において平成28年度子ども読書活動推進フォーラムを実施した。「子どもの読書活動推進への取組 ～地域・学校・図書館の連携を目指して～」と題して、平成27年6月に子ども読書活動推進計画を策定された葛城市における取組、ならびに地域のボランティア団体の方々の活動をご報告いただき、46名の参加があった。

### (2) 平成29年度事業計画

- ・ 昨年の会議では、それぞれの委員の皆様より様々なご意見をいただいた。本年も、頂戴しましたご意見等も参考にさせていただき、事業を展開していきたいと考えている。

#### ①市町村の子ども読書活動推進計画の策定について

県内各市町村の子ども読書活動推進計画の策定状況をまとめている。今後も、県としてご意見を参考にして支援をしたいと考えている。

#### ②「子ども読書活動推進」啓発ポスター事業について

昨年に引き続き、啓発ポスター募集事業を今年度も実施する。現在、県内各学校

に応募要項や添付のチラシを配布し、作品を募っている。

また、今年も、昨年度のポスター優秀作品20点の縮小版を7月29日・30日に実施された「絵本ギャラリーin 奈良」で展示した。

ポスター審査会は10月中旬に予定している。昨年同様、奈良県学校図書館協議会代表、奈良県高等学校図書館協議会代表、学識経験者、奈良県教育委員会事務局学校教育課指導主事及び当課課長で審査を行う予定である。優秀作品の展示は、県立図書情報館をはじめ県庁屋上ギャラリーや県立教育研究所等県の各施設ならびに市町村立図書館等において展示する予定である。ご協力いただく委員の方には、大変お世話をおかけしますが、よろしくお願ひしたい。

#### ③子ども読書活動推進会議専門部会について

子ども読書活動推進会議専門部会の開催は、文部科学省からの通知に基づき開催している。来年度の文部科学大臣表彰推薦について協議していただく予定である。学校、図書館、団体の3部門の選考をお願いする。

#### ④子ども読書活動推進フォーラムについて

子ども読書活動推進フォーラムについては、例年同様に2月から3月頃の開催を予定している。子ども読書活動推進のため活動されている方が、実践に役立つ情報を得られるような内容並びに市町村の子ども読書活動推進計画策定の参考になるような内容検討をしていくが、委員の皆様のお知恵もお借りできたらありがたい。

#### ⑤子ども読書活動推進講座について

県教育委員会事務局人権・地域教育課社会教育係が主催で実施している子ども読書活動推進講座については、本年度も引き続き、教職員や読み聞かせボランティア等を対象に、講義・実践のかたちで行う予定である。

### ○意見交換

#### 県くらし創造部の取り組みについて

○奈良県くらし創造部青少年・社会活動推進課長 原田徳義委員

- ・子ども読書活動推進計画の市町村における策定状況について、全国が75.3%に対して奈良県が43.6%であり、低い状況にある。市と町村別では、全国が市88.6%・町村が63.6%に対して、奈良県は市83.3%・町村25.9%であり、町村が低い。なかなか策定が進まない状況に関して、人材不足・学校まかせ・公立図書館がないといった状況がある。青少年・社会活動推進課では、市町村の推進計画策定を推進するために、マニュアルを作り説明に行ったりしている。公立図書館がない町村については、学校図書館が役割の一部を担っており、学校への働きかけが重要である。機会があれば協力願ひたい。
- ・又、奈良県の子ども読書活動推進計画に関して、平成23年度に平成15年から20年の成果と課題を出した。それから5年以上たっている現状である。国のほうでは、第4次の推進計画の改定作業が進められている。平成23年と比べて社会情勢が変わってきている。国の第4次の改定をふまえて、必要に応じて奈良県の推進計画の見直しの時期にきていると考えている。そのため体制作りを始めたい。

## 県教育委員会の取り組みについて

○奈良県教育委員会事務局学校教育課長代理 椿本剛也補佐

- ・奈良県内の子どもたちの読書に関わる状況を紹介する。まず、平成28年度全国学力・学習状況調査の中から3点紹介する。1つ目は「読書は好きですか。」に対して、小学生72.2%、中学生63.7%が肯定的な回答である。この数字は、昨年度と比較すると小学生は3ポイント、中学生は1ポイント上昇しているが、全国平均を下回る状況は昨年度同様である。2つ目は「1日当たりどれくらいの時間読書をしますか。」に対して、「全く読まない」が小学生24.0%、中学生44.0%である。3つ目は「図書館(学校図書館も含む)にどれくらい行きますか。」に対して、「ほとんど又は全く行かない。」が小学生34.9%、中学生68.9%であり、中学生は全国平均を10ポイント以上上回る結果であり、読書をしない、図書館に行かない傾向が強いように思う。
- ・学校図書館の状況について、国が隔年で実施している「平成28年度学校図書館の現状に関する調査」の結果から2点紹介する。1つ目は、全校一斉読書を実施している学校の割合である。小学校95.0%、中学校67.3%、高等学校77.1%である。中学校での実施率が全国平均を20ポイント以上下回る状況に対して、高等学校では全国平均を20ポイント以上上回っている。学校の中で読書の時間を設けているが、主体的な読書になっていないことがわかる。2つ目は、司書教諭については、学校図書館法では、12学級以上の学校には必ず置かなければならないとなっており、県内の各学校(小・中・高、特別支援学校)全てに配置している。しかし、学校司書の配置は、小学校18.4%、中学校18.3%、高等学校85.7%であり、高等学校は高いが、小・中学校では低く、学校図書館の運営・向上を図り、児童生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するためにも学校司書の必要性を感じる。
- ・先日、国が「学校図書館等の更なる整備充実について」の通知を出した。この通知を受け、学校教育課では、県立学校をはじめ各市町村教委に、次の2点を通知した。1つ目は、学校図書館の整備充実を図るための「学校図書館ガイドライン」である。これには、各教育委員会や学校等にとって参考になるよう、学校図書館の運営上の重要な事項についてその望ましい在り方が示されている。2つ目は、平成29年度からの学校図書館図書整備等5か年計画の策定に伴う地方財政措置についてである。これには、学校図書館の図書整備、複数紙の新聞配備及び学校司書の配置に当てるものとされている。これらのことを受け、今後は、子どもたちの読書の大切さと学校図書館の利活用について、学校長及び市町村教育委員会に積極的に働きかけ、読書活動の推進・啓発に努めていきたい。

## 県教育委員会の取り組みについて

○奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課長代理 松嶋志帆主任主査

- ・人権・地域教育課の取組について、当課では、学校や地域で読み聞かせボランティア活動をしている方や教職員などを対象に、「読み聞かせ講座」や「ブックトーク講座」を開催している。
- ・講座を通して、「読み聞かせ」や「ブックトーク」の意義や実践方法について理解を

深めていただき、子どもに本の魅力を伝えるための方法を学ぶ研修を行うことで、学校や地域で読み聞かせボランティア活動をする方の資質の向上を図るとともに、人材育成、ひいては地域教育力の向上を目指している。どの講座も非常に人気が高いが、演習等があるので、研修の手法として募集枠を40名～45名にしており、実践につながる演習を通して受講者のみなさんには、毎回大変満足いただいている。

- また、昨年度は「読み聞かせ講座(初心者向け)」として開催し、読み聞かせボランティア活動に興味のある方、これから活動を始めようと思われている方を対象にした。活動をされる経験に応じた研修をすることにより、より実践につなげるように実施している。
- その講座に講師でお越しいただいた奈良教育大学 教授 横山 真貴子 先生には、今年度あさって8月4日(金)に教育研究所で開催する「子どもと本をつなぐ読み聞かせ研修講座」でご講義と演習をしていただく。
- 今年度開催する「ブックトーク講座」は、昨年度に引き続き、ブックトークスペシャリストの北畑 博子先生に講師としてお越しいただき、今年度は、「中級者向け」の講座を、12月6日と12月14日の2回連続講座として開催する予定である。また、「読み聞かせ講座」を開催する予定である。

#### 県立図書館の現状と今後の課題

○奈良県立図書館副館長 小嶋宏平委員

- 県立図書館は、平成17年に開館しましたのでこの11月で12年を迎える。県立という立場もあり、基本的には調査・研究向けの図書館である。開架スペースに大きなコーナーを設けて児童書などを置くといったことは展開上していない。そういった点では、市町村の図書館と同じ公立の図書館だが、違う部分もあるのかと感じている。
- とはいえ、幅広くいろいろな方にご利用いただくことも必要なので、毎月の第2土曜日には、子ども図書室を開催している。その時には、当館の職員やボランティアの方にも加わっていただき、小さな子どもさんを連れられたご家族に読み聞かせを行うなど、別途スペースを設けて対応している。
- 先ほどの話にもあったように、市町村の中には公立の図書館が設置されていない所がある。県立図書館に移転する前の県文化会館の所にあった図書館時代からも含めて蔵書としては児童書も持っているので、相互貸借などのつながりの中で、そういった所に貸し出しをしている。
- 子どもたちの読書環境について、先ほど学校教育課より統計を示していただいた。子どもたちに限定していないが、ある新聞記事によると、奈良県で過去1年間に趣味として読書した人の割合は、千葉県と同位で全国3位である。また、1人あたりの図書館の年館利用回数は、全国9位である。奈良県は、読書に関してのポテンシャルはあるのかと感じている。
- 図書館としては、子ども読書活動の推進もいろいろな取組の1つとして位置づけを考えていきたい。今年度は、大きなテーマとして、「連携」を考えている。今後、いろいろな所と連携しながら当館に求められているニーズに応えられるよう取組を進

めていきたい。

#### 学校図書館への司書配置について

○民間団体ボランティア代表

奈良子どもの本連絡会 船津喜美子委員

- ・奈良子どもの本連絡会のメンバーで、右京おはなしの会の代表をしている。右京おはなしの会は、小学校・幼稚園を中心に保育園・こども園などで、毎月1回年少30分・年長30分の1時間のプログラムで活動をしている。右京小学校では、朝読を月2回すべてのクラスで実施している。また、「放課後子ども教室」でおはなしの会や百人一首カルタ会をするなど幅広く活動している。朝読などを通して、子どもたちはとてもお話に興味を持ち本当によく聞いてくれる。また、保育園の子どもたちも月を追うごとに絵本がなくてもストーリーテリングでもよくわかるようになり、その成長ぶりがうかがえて楽しい。
- ・今感じていることは、学校司書(図書館司書)の配置についてである。以前、文部科学省のモデル校として、右京小学校に3年間学校司書がおかれたことがあった。その時、その学校司書の方が、展示とかいろいろと工夫され図書室がとても整備されよくなった。学校司書の有無で全然違うのである。奈良県では、市によって状況が違うが全体として国の平均にはまだまだ程遠い現状である。ぜひとも、学校司書の配置を積極的に進めてほしい。

#### 図書館での読書活動推進について

○奈良県都市教育長協議会代表

奈良市立北部図書館長 北出慎一委員

- ・奈良市の図書館は、西部・北部・中央と3館あり、北部図書館が、いちばん新しく高の原駅前であり利便性が高い。北部会館内の複合施設の中にあり、19時まで開館しており年間約20万人が来館されている。
- ・子ども読書活動の取組として、地域ボランティアの協力を得て図書館の司書といっしょに週1回おはなしの会を実施している。また、複合施設の中に福祉センターがあり赤ちゃんのブックスタートの取組を行っている。
- ・学校司書配置の件で、昨年度は、図書館業務と学校業務の兼任という形であったが、今年度から、更なる学校図書館の充実をはかるため、学校専任で派遣している。主な活動として、図書室の整備・読み聞かせ・ブックトーク、朝読の支援など各事業の支援を行っている。今年度から、司書たちが集まり情報共有や問題解決に対する会議を行っている。また、学校連携支援事業を知っていただくため、司書便りを発行する予定である。今後も、学校と連携しながら学校図書館の整備・充実に努めていきたい。
- ・中学生の息子がいるが、小学生の時は割と本を読んでいた。しかし、中学生になると部活動や塾などで忙しく本を読む時間がないように感じる。そういう現状の中で、中高生を対象に図書館として読書活動を推進する方法はないのか考えている。

## 学校での読書推進について

○奈良県学校図書館協議会代表

奈良市立椿井小学校長 大橋美子委員

- ・子ども読書活動推進計画について、奈良市の推進計画もその後の見直しが必要な時期だが、進んでいかない。策定されていない市町村もあるが、策定してもそこで止まってしまっている。市町村だけでは進まないの、県からのいろいろな面でのアドバイスが必要である。
- ・小学校の学校図書館の様子が、ここ10年ぐらい前から変わってきている。学校図書館が、ただ読書するだけではなく、リラックスできる場所であったり、昔のように静かにすわって本を読むという時代ではない。教職員の意識の変革が必要であり、読書が学校教育の中核を担うものであるという意識が大切である。行政の支援が必要である。
- ・学校司書の件だが、椿井小学校も奈良市の中央図書館から週1回専任の方に来てもらっている。これは、とても大きなことで0と1では全然違い、ありがたい。ただ、公立図書館からの連携という形であり、ぜひとも奈良市も他の市町村も学校配置の学校司書を進めてほしい。
- ・国や県から、ご理解いただいて財政面の協力がある。今年度、奈良市の図書費も随分増額した。また、新聞の配布も中学校に2紙、小学校に1紙行っている。ただ、まずは人が必要である。小学校の図書館で、子どもたちが好きな本を読み調べ学習をする。やがて、大人になり、その子どもたちが公共図書館につながっていく。

## 図書館での読書活動推進について

○奈良県図書館協議会公共図書館部会代表

奈良市立中央図書館長 奥田喜隆委員

- ・奈良市には、中央・西部・北部と図書館が3館あり、この3館と中央図書館にある移動図書館により図書館のサービスの展開を図っている。
- ・奈良市の子ども読書活動推進計画であるが、以前は教育委員会の生涯学習課にあったが、この4月から中央図書館に移った。これから会議を開催する予定である。
- ・ここ5年間の奈良市の子ども読書活動の状況を見れば、奈良市の人口は平成24年度末の36万4,836人から平成28年度末では35万9,666人になり、約5,000人減少している。児童の図書貸し出し冊数は、平成24年度3館で50万6,420冊から平成28年度では52万1,328冊で若干増加している。これは、平成27年から午後7時まで開館しており、祝・祭日も開館していることが影響していると考えている。
- ・具体的な取組として、中央図書館では毎週土曜日におはなし会(ストーリーテリング及び手遊び)、毎月第1・3水曜日にふれあいを絵本から(ファーストブックと乳幼児のおはなしの時間)、12月にクリスマスおはなし会等を実施している。西部図書館では、原則毎月第3・4水曜日におはなしのろうそく(ストーリーテリング)や夏休みにわくわく科学あそび、ふれあいを絵本から(赤ちゃんと楽しむひととき)等を行っている。また、3館合同で、ぬいぐるみのおとまり会、夏休み子どもおとぎばなし大会を開催

している。このように、小さい頃から本と触れ合う機会を増やす取組を行っている。やはり、小さい時の図書との出会いは本当に大切に、図書館としても大切な取組と考えている。また、子どもたちにとっていちばん身近である学校図書館との連携も必要であると思う。

- ・インターネットやスマートフォン、IT機器の普及、AIなど図書館を取り巻く環境が大きく変わる中、やはり紙ベースの本を大切にしながらも、電子書籍等の取扱など今後の図書館運営の在り方も含め考えていかなければならない難しい時を迎えていると感じている。

#### 学校現場での読書推進について

○奈良県学校図書館協議会 高等学校図書館研究会代表

奈良県立平城高等学校長 今西一盛委員

- ・高校現場での読書活動推進状況について話したい。全国調査によると、高校生の読書傾向は低く横ばい状態である。高校生が1ヶ月間(5月)に読んだ書籍は1.4冊である。小学生は11.4冊、中学生は4.2冊である。雑誌については、男子は少年ジャンプ、女子はセブンティーンがトップだが、月1.3冊ということは週刊誌さえ読まない危機的状況にある。読まない理由は2つ上げられている。1つ目は、本を読む習慣がなく関心がないことだ。2つ目は、他の活動に時間を取られていることだ。本校の生徒の状況を見ても、大部分が部活動をしており、帰宅すると宿題をしてスマホをさわって寝てしまう者が多いように思われる。  
改善策として、地域図書館の整備・学校教室内で本を読む時間を設けること・特に長期休暇期間を利用しての読書を推進すること・まんがやアニメ、テレビや映画との関連のあるものについてPRを工夫することなどの提言がある。
- ・この状況を踏まえて、各高校で読書意欲を高めるべく努力している。ほとんどの高校で読書週間を設定して読書の時間を設けている。図書館だよりや、校内のテレビモニターを使って、新刊図書を紹介したり、先生のおすすめ本を紹介したりしている。ビブリオバトルの取組も進んでおり、高校46校中16校が実施している。
- ・司書部会では、学校図書館のディスプレイについて研究している。国語科の先生方と協力して生徒自身が薦める本について、帯やポップを作らせて展示したり、本の並べ方についても専門家を呼んで研修したり、努力している。
- ・教育現場において、読書の時間を確保するのが難しい状況だが、一方でアクティブラーニングの導入などで学校図書館の役割が見直される状況もあるので、各校で情報を共有しながら、実践と研究を積んでよい方法を考えていきたい。

#### 図書館での読書活動推進について

○奈良県町村教育長会代表

安堵町立教育委員会教育長 楮山素伸委員

- ・安堵町には、小学校1校・中学校1校がありそれぞれに図書室がある。また、安堵町の文化センターの中に小規模な図書室がある。学校の取組としては、小学校・中学校とも朝15分朝読を実施している。読み聞かせのボランティアとして、ねこじゃらし

さんというグループに週1～2回来てもらって読み聞かせを行ったり、最近絵本を作って紙芝居にして見せたりしており子どもたちにとって興味深い取組となっている。

- ・学校司書の件だが、安堵町では2年前、子どもたちの読書を啓発し進めていく上でも学校司書が欠かせないということで、教育委員会から予算要求をした。その結果、小学校・中学校に、週4日1名ずつ常時学校司書をおいている。民間読み聞かせグループねこじゃらしさんの中から司書の資格を持つ方に来てもらっている。学校司書をおくことで、図書室の雰囲気が変わった。図書室に入ると、かわいらしい雰囲気で本を読もうという気持ちになる。また、本を読みましようというポスターを作ったりしている。学校もそれに対応している。
- ・小さな町なので、まず予算を獲得しないと、図書の冊数も増えない。毎年、町内の方で小学校・中学校に子どもたちに本を読ませてくださいということで寄贈いただいている。
- ・学校教育課より子どもの読書についての全国調査の結果を聞かせてもらったが、県の学力テストの読書に関する結果にも同じようなことがいえる。小学校時代にけっこう本を読んでいたが、中学校にいくと半減する。中学校でのクラブ活動やスマホを持つことの影響が出ている。国語の問題を見ると、文章を読み取って解答する問題がある。このようなことも含めて、すぐにはいかないが読書活動を推進していきたい。
- ・図書室と連携しているので、各小学校・中学校の学級図書にロッカーの上に500～600冊本を2週間おき利用してもらっている。

### 読書活動推進について思うこと

#### ○学識経験者

奈良教育大学教職大学院教授 松川利広委員

- ・毎年夏休みに、学校図書館司書教諭の資格をとるための講習会の講師をしており15年以上になる。そこで講習を受ける受講生は、現場の先生・司書教諭の資格を持っていない人・学生で司書教諭の資格を取りたい人で、多くは現場もしくは一般の方である。その人たちと接していると本当に元気がある。私が司書教諭になったら、こんな図書室・図書館にしたいといったアイデアがいっぱいある。しかし、実際には学級担任と兼務しているのでそこに全力投球するわけにはいかない。潜在的にポテンシャルとして優秀な司書教諭がいる。その人たちの活用、花開く環境を用意すれば、今以上に学校図書館がよくなる方法がある。
- ・1つの事例だが、学校で養護教諭1人でやっていたのを2人にしたことがある。2人体制にしたら、それぞれに得意分野があり子どもたちにとってもよい。人の存在は大きい。学校教育現場は、チーム学校として外部人材を活用しながら、実際に実現できる方法で諸条件を整備していくことが必要である。
- ・今、学校の教育現場では、新学習指導要領が告示され、そちらに興味・関心が向いている。キーワードは、主体的学び・対話的な学び・深い学びである。これらを追求していくと、読書・図書館と切り離すことはできない。本当に読書の果たす役割と図書館の機能の向上が必要である。県としても、具体策が必要である。

- ・この推進会議の機能・役割として、奈良県全体の読書活動推進に向けて、全く読まない人を0にするために焦点を当てて、どういう作戦をとるべきか考える必要がある。絵本ギャラリーが実施されているが、そこに来られる子どもたちは限られている。ここへ来れない子どもたちをどういうふうにするかである。学校で決められた時間に読ますとか、「本はおもしろいなあ！」とか「読まず嫌いかなあ！」というふうに呼びかけたりして、対象をしぼっていくと具体性のある方策が見える。
- ・国語科の新学習指導要領で、今までに使わなかった「語彙を豊かにする」が明記されている。戦後初めてである。語彙を豊かにするためには、読書・読書したあとのコミュニケーションから進めていく。教科学習のみならず、読書を改めて現場も注目し積極的に推進していかなければならない。
- ・先日、奈良市の先生方に伝記についてお話する機会があった。伝記は、それぞれ1人の人物に対して様々なことばで表現している。伝記を読むことによって、奥の深い読書活動ができる。公共図書館の貸し出しを利用して、伝記月間などの企画もおもしろい。

#### 【吉田議長】

- ・子ども読書活動推進計画について、県は見直すということだが、市町村についても策定に向けて進めていってほしい。
- ・読書に関して中学生が時間がないということだが、スポーツの実施率にも全く同じことが言える。スポーツをしない人の理由が、時間がない・きっかけがないである。ある県の会議で、元オリンピック選手は、「楽しかったらするでしょう。」と発言された。楽しいということをいかに伝えるかである。これが司書の役割である。どの時期の子どもに教えるかだが、幼い頃小学校の時に読書の楽しさを教えることが大切だ。1回経験すれば、中学校・高校で忙しくても、大学・社会人になってゆとりができれば再び読書するようになると思う。

#### 【吉田議長】

本日は、委員の皆様から貴重な意見をたくさんいただきました。今後、少しでも参考にさせていただけたらと思います。今日いただいた意見を踏まえ、子どもたちの読書活動推進に向けての取組が少しでも活性化すればと思います。

長時間にわたり積極的にご議論いただきお疲れ様でした。以上で平成29年度奈良県子ども読書活動推進会議を終了いたします。

ありがとうございました。

